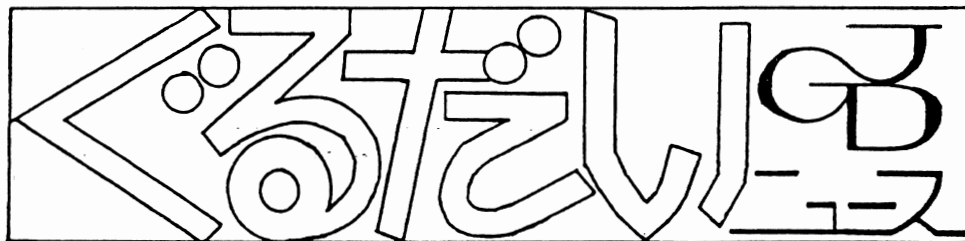


日本グループ・ダイナミクス学会会報

1996年
1月24日

第7号

発行所／奈良市山陵町1500 奈良大学社会学部（矢守研究室）
日本グループ・ダイナミクス学会 TEL/FAX 0742-43-6374
発行人／杉万俊夫 編集担当／大坊郁夫

新年あけましておめでとうございます。昨年は驚愕と失望とそしてやはり捨てがたい人の支えの兆しを感じた年でした。さて今年はどうなる年になるのでしょうか。援助・協力の仕方についてまだまだ考えなければならないことが多くあります。昨年の大会総会は仮総会でした。その総会事項などがこのニュースにあります。国際的な活動の方針などについてのご意見どうぞお寄せください。中村先生はじめ学習院大学関係者の方々ありがとうございました。（坊）

●● Asian Journal of Social Psychology ●●

－1996年度からの英文誌、グルダイ学会とアジア社会心理学会の共同出版に！－

会長 杉万俊夫（京都大学）

昨年11月の総会（仮総会）において、英文誌の改革案が承認されました。その内容は次の通りです。

（1）現在和文誌（No. 1, No. 2）に続くNo. 3として刊行している英文誌を、和文誌から独立させ、"Asian Journal of Social Psychology"というタイトルで年2冊刊行する。（和文誌「実社心研」は、現行どおり、年2冊刊行する。）

（2）編集は、グルダイ学会とアジア社会心理学会の共同編集体制とする。したがって、編集委員会の最高責任者（senior editor）は、グルダイ学会会長とアジア社会心理学会会長の連名となる。グルダイ学会の編集委員（＝理事＋α）は、全員、編集委員となる。

（3）出版経費は、グルダイ学会がNo. 1を、アジア社会心理学会がNo. 2を負担する。

以上により、グルダイ会員には、現行の会費のままで年2冊の英文誌が配布されることになります。論文の投稿については、まず、母国語で書いた論文で審査を受け、acceptされた後に英訳して掲載することもできます。その場合も、英訳は著者によって行なわれることになりますが、英文を推敲する人物については、アジア社会心理学会のネットワークにより、適当な人を紹介することが可能になります。

Asian Journal of Social Psychologyへの投稿・審査規定については、次号の「ぐるだいいニュース」でお知らせする予定です。

☐ 学会関係連絡先一覧 ☐

◎入退会、住所・所属等変更、会費納入、機関誌・ニュースレターの未着

日本学会事務センター大阪事務所（担当：大戸）

〒565 大阪府豊中市新千里東町1-4-2 千里ライフエッセンスビル14階

電話 06-873-2301 FAX 06-873-2300

◎投稿論文の送付、機関誌編集に関する問合せ、その他学会運営に関するご意見

奈良大学社会学部矢守研究室

〒631 奈良市山陵町1500 奈良大学社会学部

電話 0742-41-9559

FAX 0742-43-6374 または 0742-41-0650

NIFTY-Serve PXF04242/pxf04242@niftyserve.or.jp（矢守）

◎ニュースレターの編集、記事の投稿

北星学園大学文学部大坊研究室

〒004 札幌市厚別区大谷地西2-3-1 北星学園大学

電話 011-891-2731（内線463） FAX 011-894-3690

NIFTY-Serve MAH02332/mah02332@niftyserve.or.jp（大坊）

◎機関誌のバックナンバー購入、図書館等での機関誌購入

日本学会事務センター事業部（担当：田代）

〒113 東京都文京区本駒込5-16-9 電話 03-5814-5811

★★ 今年度研究奨励賞受賞者 矢守氏、坂田氏に決まる! ★★

「研究奨励賞」選考の経緯について

研究奨励賞選考委員長 末永 俊郎

この度「研究奨励賞」の受賞者として、矢守克也さんと坂田桐子さんのお二人が決まったことはご承知の通りですが、例年お一人が受賞されるのに、今年はどうしてお二人になったのか疑問に思われる向きもあるかと思います。そこで、選考の経緯について若干コメントしておきたいと思います。

選考は10人の選考委員によって行われ、まず、選考の条件にかなう7編が採点の対象となりました。各先生の採点を集計した第1次選考の結果、矢守克也さんの「社会的表象としてのメンタルマップに関する研究」、清水裕さんの「失敗経験と援助行動意図との関係について」、坂田桐子さんの「The effects of social category salience and self-construals upon self-stereotyping strategies」の3編が第2次選考に残りました。

11月24日に第2次選考委員会が開かれ、受賞者の最終決定をめぐって、いろいろな意見が出ました。たとえば、採点の単純集計を基にすれば、当然最高得点の矢守さんが当選ということになりますが、矢守さんは2度目の受賞であり、「奨励賞」というからには、「新人の発掘」という観点をはずすわけにはいかないのではないか、等々です。その結果、今回は賞を折半して、矢守さんと新人の坂田さんのお二人に差し上げてはどうか、ということになったわけです。

ところで、現行の規定では、再受賞について何も触れていません。そもそも「奨励賞」とは何ぞや、という本質論の討議を含めて、この問題の扱いについて常任理事会で再検討して頂く必要があるのではないのでしょうか。

▼▼ 常任理事会・常任編集委員会報告 ▼▼

日本グループ・ダイナミックス学会常任理事会(常任編集委員会)

日 時:1995年11月24日 13:00~14:30

場 所:学習院大学百周年記念会館3階会議室

出席者:(会長)杉万俊夫 (常任理事)大坊郁夫、黒川正流、鈴木康平、山本真理子、矢守克也

杉万会長より、常任理事会と常任編集委員会を一括して開催したいとの提案がなされ、了承された。

【報告事項】

1. 会員動向について
2. 諸学会連絡会議について
3. ニュースレター発行について
4. 名誉会員推戴について
5. 研究奨励賞選考経過報告
6. 「実験社会心理学研究」の審査・編集経過報告
7. 新入会員について

9月、10月末の「持ちまわり常任理事会」で入会を認めた、以下の3名の入会を再確認した。

伊豆田ゆかり(東京大学大学院)、竹澤正哲(北海道大学大学院)、山本恵子(大阪大学人間科学部)

(なお、1~5は理事会、総会における報告の通り。詳しくは総会報告を参照。6は理事会における

報告の通り。詳しくは理事会報告を参照)

【審議事項】

1. 平成6年度事業報告と決算・会計監査報告
2. 平成7年度事業と予算執行経過報告
3. 第42回大会(平成6年度大会)会計報告
4. 会則および細則の変更について
5. 和文誌および英文誌執筆規定の変更について
6. 「実験社会心理学研究」の審査プロセスについて
7. アジア社会心理学会との連携について
8. 平成8年度事業計画案と予算案について
9. 三隅賞について
10. 第44回大会(平成8年度大会)について (以上、詳しくは総会報告を参照)

▼▲ 理事会・編集委員会報告 ▲▼

日本グループ・ダイナミックス学会理事会(編集委員会)

日 時:1995年11月24日 16:00~18:00

場 所:学習院大学百周年記念会館3階会議室

出席者:(会長)杉万俊夫 (常任理事)大坊郁夫、黒川正流、鈴木康平、山本真理子、矢守克也

(理事)大淵憲一、長田雅喜、高田利武、関文恭、渥美公秀、亀田達也、村田光二、竹村和久、

浦光博、(監査)古畑和孝、篠原しのぶ

杉万会長より、理事会と編集委員会を一括して開催したいとの提案がなされ、了承された。

【報告事項】

1. 会員動向について

2. 諸学会連絡会議について
3. ニュースレター発行について
4. 名誉会員推戴について
5. 研究奨励賞選考経過報告
6. 「実験社会心理学研究」の審査・編集経過報告

35巻1号は予定通り、1995年7月刊行した。現在、同2号および3号を編集または印刷中である。2号には特集「阪神大震災とグループ・ダイナミックス」を、3号には特集「social representation」を掲載予定である。（すべて、総会における報告の通り。詳しくは総会報告を参照）

【審議事項】

1. 平成6年度事業報告と決算・会計監査報告
2. 平成7年度事業と予算執行経過報告
3. 第42回大会(平成6年度大会)会計報告
4. 会則および細則の変更について
5. 和文誌および英文誌執筆規定の変更について
6. 平成8年度事業計画案と予算案について
7. 三隅賞について
8. 第44回大会(平成8年度大会)について
9. 「実験社会心理学研究」の審査プロセスについて

現行の審査プロセスを再確認・承認した(資料6)。ただし、①主査の権限強化とバランスをとるため、審査結果に疑念がある場合投稿者はその旨を直接編集委員長に申し出ることができること、②審査期間短縮のため、副査に対する督促も主査の役割であることを周知徹底すること、③3人の審査員が全員非会員となることはさけること、を確認した。

10. アジア社会心理学会との連携について

アジア社会心理学会との共同編集によって英文誌を年間2冊刊行する原案（詳しくは、本ニュースレター掲載の記事を参照）が承認された。ただし、①具体的な審査プロセス、審査基準、②母国語(日本語)での投稿・その後の翻訳作業に際しての具体的手順、③和文誌に掲載された論文からの英文誌への転載、などについては今後常任編集委員会において詳細をつめることとした。

(なお、1～8について詳しくは総会報告を参照)

▼▼ 総会報告 ▼▼

日本グループ・ダイナミックス学会総会

日時:1995年11月26日 12:30~13:50

場所:学習院大学百周年記念会館小講堂

中村陽吉大会委員長の挨拶の後、鈴木常任理事を議長に選出した。

【報告事項】

1. 会員動向について

9月末現在の会員数は724人。長期会費滞納者への督促、および、会費未納者の退会措置をとったことにより44人の減少があった。一方で、今年度当初からの新入会員も50人にのぼった。

2. 諸学会連絡会議について山本常任理事より、分担金の改訂、諸学会連絡会議と心理学会との関係について報告があった。

3. ニュースレター発行について

大坊常任理事より、第6号を10月刊行したこと、次号は1996年1月刊行予定であること、研究会報告などの記事を募集していることが報告された。

4. 名誉会員推戴について

廣田君美、三隅二不二、中村陽吉、末永俊郎(ABC順)の4氏を名誉会員に推戴すること、総会に引き続き推戴式を行うことが報告された。

5. 研究奨励賞選考経過報告

1995年度の研究奨励賞について、末永選考委員長より選考経過ならびに結果の報告があった(詳細は、本ニュースレター掲載の記事を参照)。なお、複数回の受賞の可能性、新設の三隅賞との関連性など、研究奨励賞の性格づけについて今後検討していくことも了承された。受賞者および受賞論文は以下の通り。

☆矢守克也「社会的表象としてのメンタルマップに関する研究」(34巻1号)

☆坂田桐子「The Effects of Social Category Salience and Self-

Construals upon Self-Stereotyping Strategies」(34巻3号)

6. 「実験社会心理学研究」の審査・編集経過報告

35巻1号は予定通り、1995年7月刊行した。現在、同2号および3号は、掲載原稿を編集・印刷中である。2号には特集「阪神大震災とグループ・ダイナミックス」を、3号には特集「social representations」を掲載予定である。

また、審査期間の短縮化を図り、投稿から著者への(最初の)フィードバックまでの期間を3カ月とする目標がほぼ達成されているとの報告がなされた。なお、1995年11月現在の審査状況は下表の通り。

	投稿総数	掲載決定	審査中	不掲載決定
和文誌	29	10	18	1
英文誌	3	3	0	0

【審議事項】

1. 平成6年度事業報告と決算・会計監査報告

黒川常任理事より、平成6年度事業報告と決算報告があった(資料1)。また、篠原監査より会計監査報告があり、審議の結果原案通り承認された。

2. 平成7年度事業と予算執行経過報告

矢守常任理事より、平成7年度予算の執行状況について、事業計画、予算執行状況とも計画通りとの報告があり、承認された(資料2)。

3. 第42回大会(平成6年度大会)会計報告

狩野大会副委員長より報告があり、承認された(資料3)。

4. 会則および細則の変更について

杉万会長より、会費の改定、事務局の移転などにもなう変更がほとんどである旨の補足説明がなされた。審議の結果、原案通り承認された(資料4)。

5. 和文誌および英文誌執筆規定の変更について

杉万会長より、すでにニュースレターに掲載した執筆規定の変更について説明がなされた。審議の結果、原案通り承認された(資料5)。

6. 平成8年度事業計画案と予算案について

矢守常任理事より、資料7に基づき提案がなされた。なお、①本年度からの繰越金、②来年度、理事選挙、名簿作成業務を学会事務センターに委託するための予算を計上していること、③英文誌を2冊刊行することにもなう郵送関係の支出を見込んでいること、などについて補足説明がなされた。審議の結果、原案通り承認された。

7. 三隅賞について

これまで常任理事会において、英文誌掲載の論文を対象とする案を検討してきたが、英文誌の改革を待って来年度以降再検討したい旨の提案が杉万会長よりなされ、審議の結果、原案通り承認された。

8. 第44回大会(平成8年度大会)について

黒川正流常任理事を大会委員長として、1996年10月26日、27日の両日、広島大学総合科学部において開催することが提案され、承認された。

9. 「実験社会心理学研究」の審査プロセスについて

現行の審査プロセスを再確認・承認した(資料6)。ただし、①主査の権限強化とバランスをとるため、審査結果に疑念がある場合投稿者はその旨を直接編集委員長に申し出ることができること、②審査期間短縮のため、副査に対する督促も主査の役割であることを周知徹底すること、③3人の審査員が全員非会員となることはさけること、を確認した。

*資料1

日本グループ・ダイナミックス学会
平成6年度決算報告書(案)

自 平成 6 年 4 月 1 日
至 平成 7 年 3 月 31 日

収 入				支 出			
項 目	予算額	決算額		項 目	予算額	決算額	
1. 会費	4,780,000	4,522,800		1. 機関誌印刷経費	3,515,000	3,564,673	
(1) 年度会費	(2,840,000)	(2,721,000)		(1) 機関誌印刷費	(2,230,000)	(2,567,275)	
(2) 賛助会費	(140,000)	(0)		(2) 機関誌編集・印刷料	(500,000)	(444,786)	
(2) 定期購読	(1,800,000)	(1,801,800)		(3) 送料	(435,000)	(249,065)	
2. 分冊売上	250,000	291,275		(4) 抜き刷り	(300,000)	(303,552)	
3. 文部省科学研究費補助金	390,000	390,000		(5) 抜き刷業務費	(50,000)	(0)	
4. 広告収入	280,000	95,000		2. ニュースレター作成費	300,000	80,000	
広告		(45,000)		3. 学会賞関係費	100,000	16,000	
ニュースレター広告収入		(50,000)		4. 地域別合評会	50,000	29,620	
5. 雑収入	380,000	318,264		5. 通信・交通費	200,000	128,456	
(1) 利息	(30,000)	(14,712)		6. 贈字会連絡費	150,000	71,293	
(2) 抜き刷りの他	(300,000)	(303,552)		7. 大会助成金	200,000	200,000	
(3) 版下、理事選挙	(50,000)	(0)		8. 人件費	300,000	293,040	
6. 名簿準備立入金	500,000	500,000		9. 事務費	500,000	488,425	
7. 大会論文集		121,700		(1) 事務所借室料	(360,000)	(360,000)	
8. 前年度繰越金		547,840		(2) 事務雑費	(140,000)	(128,425)	
				10. APA広告費		241,143	
				11. 理事会費	450,000	393,603	
				12. 予備費	30,000	0	
				13. 雑費	25,000	3,956	
				14. 名簿作成・理事選挙費	750,000	854,841	
合 計	6,580,000	6,786,879		小 計		6,365,120	
				次年度繰越金		421,759	
				合 計	6,580,000	6,786,879	

特別会計 特別出版基金 1. 040, 734円 (内・平成6年度利息収入73, 526円)
基本積立金 585, 533円 (内・平成5年度利息収入11, 282円)
三隅賞基金 1. 200, 000円 (外・利息249円)

会計監査報告

監査の結果正確妥当であると認める。

古 畑 和 孝
篠 原 しのぶ



10. アジア社会心理学会との連携について

アジア社会心理学会との共同編集によって英文誌を年間2冊刊行する原案（詳しくは、本ニュースレター掲載の記事を参照）が承認された。ただし、①具体的な審査プロセス、審査基準、②母国語（日本語）での投稿・その後の翻訳作業に際しての具体的手順、③和文誌に掲載された論文からの英文誌への転載、などについては今後常任編集委員会において詳細をつめることとした。

☐ なお、本総会は、出席者が定足数に満たなかったで仮総会となった。会則11条の規定により、本議事録の公開から1カ月以内に文書による異議が会員の過半数から提出されない場合には、正式の総会議事として効力を発することになる。 ☐

*資料2

日本グループ・ダイナミクス学会1995年度予算

収入 項 目	予算額	支出 項 目	予算額		
1. 会費	5,700,000	1. 機関誌印刷経費	3,935,000	3. 学会費関係	100,000
(1) 会員年度会費	(3,900,000)	(1) 機関誌印刷費	(2,600,000)	4. 地域別合評会	50,000
@6,000×600 (人)		(2) 英文校閲料	(300,000)	5. 諸学会連絡費	100,000
@4,000×75 (人)		* (3) 機関誌発送業務	(150,000)	6. 大会助成金	200,000
(2) 雑誌定期購読	(1,800,000)	@200×750 (人)		7. 事務費	1,415,000
2. 分冊売上	300,000	(4) 機関誌送料	(165,000)	* (1) 会員管理費	(100,000)
3. 文部省科研費補助金	500,000	@60×3 (冊)×750 (人)		* (2) 会費徴収費	(315,000)
4. 広告収入	300,000	(5) 編集業務通信費	(600,000)	@420×750 (人)	
5. 雑収入	165,000	(電話費/郵送費)		* (3) 会員異動処理費	(100,000)
(1) 利息	(10,000)	(6) 抜刷	(150,000)	(新入会員/住所所属変更/追加発送)	
(2) 抜刷	(150,000)	2. ニュースレター	317,500	* (4) 庶務業務委託費	(240,000)
合 計	6,960,000	(1) 印刷費	(100,000)	@20,000×12 (月)	
		@50,000×2 (回)		* (5) 送ラベル出力費	(60,000)
		* (2) 発送業務	(97,500)	(6) 人件費	(600,000)
		@130×750 (人)		@5,000×10 (日)×12 (月)	
		(3) 送料	(120,000)	8. 理事会費	(500,000)
		@80×2 (回)×750 (人)		9. 予備費	(22,500)
				10. 雑費	(20,000)
				11. 名簿作成・理事選挙費用	(300,000)
				合 計	6,960,000

- *印は、学会事務センターへの支払い（計 ¥1,062,500）。
- 会費値上げ額（一般：¥2,000、学生：¥1,000）の算定根拠。会員総数750人。会費納入率を90%とすると、会費納入会員は675人。うち、600人を一般会員、75人を学生会員と考える。学生会員に対する値上げ転嫁分を一般会員の1/2とすると、事務業務の事務センター委託に伴う支出増（¥1,062,500）を、637.5人（=600+75/2）で負担することになる。この結果は、¥1,062,500÷637.5=¥1,666となる。
- 支出1-(5)項の算出根拠。昨年実績で、編集業務に関わる郵送費は約¥3,000,000。さらに、新編集事務局に開設する電話の費用が¥240,000（¥20,000×12月）。これに、新編集体制への移行にともなう増分を見込んだ。
- 支出8項の算出根拠。主として、常任理事会開催のための旅費。常任理事が全国に分散することになったため、日常のコミュニケーションは各種メディアに依存することになる。しかし、少なくとも学会時以外に、年間3回の会合を関西地区で開催すると、北海道（¥57,000×3回）、東京（¥26,000×2人×3回）、熊本（¥28,000×3回）、広島（¥12,000×3回）の合計が、¥447,000となる。
- 支出7-(5)項について。地域別合評会等を案内する際の宛名ラベルを事務センターに要求する際の費用。
- 支出7-(6)項について。新編集事務局の事務バイト（週2日を予定）に対する謝金。
- 学会事務局を集団力学研究所から、学会事務センター（名簿管理/会費徴収）、および奈良大学（雑誌編集）に移管することにもなう初期投資について。このために、約¥35万が必要となり、これには「基本積立金（現在¥48万）」の一部を充てる。事務センターへの委託については、上記*印の定常予算以外に、事務センターの見積りによれば、契約金として¥6万、名簿引継ぎ（@400×750（人）=¥30万）が必要。後者については、名簿のFD引継ぎを行えば約半額になる見通し。現在、黒川常任理事を中心にそのための作業中。よって、来年度当初に、約¥20万が必要。また、奈良大学の編集事務局開設にあたって、電話回線1本の契約（約¥8万）と電話機（FAX、留守電付き：約¥5万）が必要。

*資料3

日本グループ・ダイナミックス学会

第42回大会 決算報告書

(平成6年10月22、23日)

収 入	支 出
項 目	項 目
1. 参加費 239名 1,093,500	1. 印刷等 1,404,920
正会員予約 84500×172 (774,000)	(1)大会開催案内等 (189,520)
当日 85000× 56 (280,000)	(2)大会プログラム (412,000)
臨時会員 85500× 5 (27,500)	(3)大会論文集 (803,400)
学生会員 82000× 6 (12,000)	
2. 論文集 256冊 1,183,000	2. 通信費 401,434
論文掲載・予約購入他	3. 大会運営費 742,538
84500×206 (927,000)	(1)大会設営一式(外注)
当日購入 85000× 47 (235,000)	(583,938)
85500× 3 (16,500)	(2)総会弁当代等 (127,400)
写真掲載料 8500× 9 (4,500)	(3)2日目弁当代 (31,200)
3. 懇親会 161名 633,500	4. 特別講演会 292,930
会員予約 84000× 86 (344,000)	5. 人件費 376,000
学生 83000× 26 (78,000)	6. 懇親会関係費 682,606
会員当日 84500× 40 (180,000)	7. 理事会関係費 30,000
学生 83500× 9 (31,500)	8. 事務・雑費 140,772
4. その他 1,361,200	9. 寄付(三隅賞) 200,000
GD学会本部より (200,000)	
広告・賛助費等 (1,130,000)	
2日目弁当代 (31,200)	
合 計 4,271,200	合 計 4,271,200

日本グループ・ダイナミックス学会 第42回大会

委員長 三 隅 二 不 二



*資料4

日本グループ・ダイナミックス学会
学会会則/同細則変更(案)

条 項	変 更 後 (新)	変 更 前 (旧)
会則第2条	この会の事務所は、当分の間、奈良大学社会学部矢野研究室(〒631 奈良市山鹿町1590)におく。	この会の事務所は当分の間財団法人集団力学研究所(〒810 福岡市中央区天神1丁目4番1号西日本新聞会館14F)におく。
会則第4条	(項の入替: 6項を2項に、2項を3項に、3項を4項に、4項を5項に、5項を6項に、それぞれ変更する)	
会則第6条	この会に正会員として入会しようとする者は、この会所定の書式により入会を申請するものとする。…(後略)…	この会に正会員として入会しようとする者はこの会所定の書式による正会員1名の推薦と経歴資料を添えて入会を申請するものとする。…(後略)…
会則の附則	この改正会則は1995年 月 日から発効する。ただし第9条については1996年度から適用する。	この改正会則は1994年4月1日から発効する。ただし第9条については1996年度から適用する。
細則第24条	正会員の会費は当分の間、年間8000円とする。但し、大学学部卒業後2年以内の大学院在学中の正会員で、しかるべき証明資料を添えて申請した者に限り、年間4000円とする。…(後略)…	正会員の会費は当分の間、年間4000円とする。但し、大学学部卒業後2年以内の大学院在学中の正会員で、しかるべき証明資料を添えて申請した者に限り年間3000円とする。…(後略)…
細則第30条	実践社会心理学研究は、グループ・ダイナミックスおよびその関連領域における未公開の論文および資料等、ならびに、本会の活動状況の報告等を掲載する。ただし、英文号については、編集委員会が必要と認めた場合、原公開の論文の要約を掲載することがある。	実践社会心理学研究は、グループ・ダイナミックスおよびその関連領域における未公開の原著および資料等、ならびに、本会の活動状況の報告等を掲載する。但し、英文号に関しては未公開を原則とする。
細則第32条	実践社会心理学研究を発行するために、次の役員を置く。 1. 編集委員長 2. 常任編集委員 3. 編集委員	実践社会心理学研究を発行するために次の役員を置く。 1. 編集委員長 2. 編集副委員長 3. 編集委員 4. 常任編集委員 5. 編集幹事
細則第33条	編集委員長は会長が兼務する。常任編集委員は常任理事が兼務する。編集委員は理事が兼務する。但し編集委員が運営上必要と認めた場合は、理事以外から若干名の編集委員を委嘱することができる。	編集委員は本会の会長、副会長、および理事が兼務する。但し会長が運営上必要と認めた場合は、理事以外から若干名を委嘱することができる。編集委員長は委員の互選により定める。編集副委員長は編集委員長が委嘱する。常任編集委員は、編集委員の中から原則として地区毎に若干名を委嘱する。編集幹事は若干名を会長が委嘱する。
細則第34条	(「編集幹事は…」以下を削除する)	
細則の附則	改定会費は、1995年度から適用する。 この改正会則細則は1995年 月 日から発効する。	改定会費は、1981年度から適用する。 この改正会則細則は1994年4月1日から発効する。

*資料7

日本グループ・ダイナミックス学会平成8年度予算(案)

収 入		支 出	
項 目	予算額	項 目	予算額
1. 会費	6,150,000	1. 機関誌印刷経費	4,275,000
(1) 会員年度会費	4,310,000	(1) 機関誌印刷費	3,000,000
@6,000×675(人)		和文誌(2冊分)	2,200,000
@4,000×65(人)		英文誌(1冊号)	800,000
(2) 入会金		* (2) 機関誌発送業務(4冊分)	195,000
@1,000×40(人)		@260×750(人)	
(3) 雑誌定期購読	1,800,000	(3) 機関誌送料	180,000
		@60×4(冊)×750(人)	
		(4) 編集業務通信費	600,000
		(電話費/郵送費)	
		(6) 抜刷	300,000
2. 分冊売上	300,000	2. ニュースレター	480,000
3. 文部省科研費補助金	500,000	(1) 印刷費	150,000
4. 広告収入	150,000	@50,000×3(回)	
5. 雑収入	310,000	* (2) 発送業務(3回分)	150,000
(1) 利息	10,000	@200×750(人)	
(2) 抜刷	300,000	(3) 送料	180,000
		@80×3(回)×750(人)	
6. 名簿作成・理事選挙 準備積立金繰入	600,000	3. 学会賞関係	100,000
7. 前年度繰越金	445,000	4. 地域別合評会	50,000
		5. 諸学会連絡費	100,000
		6. 人会助成金	200,000
		7. 事務費	1,430,000
		* (1) 会費管理費	60,000
		* (2) 会費徴収費	315,000
		@420×750(人)	
		* (3) 会員異動処理費	100,000
		(新入会員/住所・所属変更/追加発送)	
		* (4) 会計業務委託費	240,000
		@20,000×12(月)	
		* (5) 発送ラベル出力費	30,000
		(6) 事務補助業務人件費	480,000
		@5000×8(月)×12(月)	
		* (7) 通信・交通費(郵送費等)	120,000
		* (8) 事務雑費(複写費等)	20,000
		* (9) その他(特別請求手数料等)	65,000
		8. 理事会費	500,000
		9. 予備費	20,000
		10. 雑費	50,000
		11. 名簿作成・理事選挙費用	1,250,000
		* (1) 会員名簿作成費	1,050,000
		* (2) 理事選挙費	200,000
合 計	8,455,000	合 計	8,455,000

[註] *印は、学会事務センターへの支払(合計¥2,545,000)を示す

□□ 特集の企画募集!! □□

これまでもニュースレター等でご案内してまいりました通り、「実験社会心理学研究」では、「特集」のテーマ（企画）を広く会員のみなさまから募集いたしております。応募いただいた企画は常任編集委員会において検討され、採択された企画は応募者を特集企画者とする「特集」として公刊されます。

「特集」のテーマ（企画）についてアイディアをお持ちの方は、「特集」のテーマ、ねらい（概要）、企画者の氏名、所属をA4サイズの用紙2～3枚（書式自由）程度にまとめ、実験社会心理学編集事務局宛お送り下さい。

なお、「特集」の位置づけについて下記に再掲しておきます。

「特集」は、一つの明確な方向性をもつ、読みごたえのある3～4論文で構成する。執筆者は会員に限定しない。また、「特集」のテーマは広く会員に公募し、常任編集委員会において検討する。ただし、「特集」によって、一般論文の掲載遅滞が発生することは避ける。なお、英文号の「特集」もありうる。

☆☆ 学会・研究会等の情報掲示板 ☆☆

【九州地区 社会・教育心理学研究会（KSEP）の発会】

久留米大学文学部 原岡一馬

日頃、久留米大学や近隣の社会心理や教育心理に関心をもつ研究者たちから、研究会を開いたらどうかという意見があり、他の地区の研究会の動きなどの情報なども参考にして、九州北部にそのような研究会を発足させてはどうかということで、今回、KSEPを発足させることにしました。

参加資格は公式的に決めるのではなく、「社会心理や教育心理に関心のある人であれば誰でも参加でき、思ったことを何でも言える会にしたいこと、特に、大学院の若手研究者や企業や教育関係者で関心のおありの方も大いに歓迎する」ということで発足しました。

第1回研究会：期日：1994年1月22日 時間：13:30～17:00 場所：久留米大学文学部心理学研究室
発表者・テーマ

1. 不確定性への志向性と社会的影響（安永悟：久留米大学・甲原定房：九州大学）

2. 不確定性への志向性とその測定について (甲原定房・安永悟)

連絡先: 久留米大学文学部 責任者 原岡一馬 連絡担当: 安永悟(0942-48-4411内線393)
 として第1回の研究会を開催しました。参加者は18名で、熊本、佐賀、大分、北九州、福岡などかなりの範囲から集まり、それに地元の研究者や現場研究者、大学院生なども加わり、予定時間を約1時間オーバーして真剣な討議がなされ、発表者も参加者も有意義であったとの感想が出ました。そこで、このような会を大体1ヶ月おきに開くことを約束して会を閉じました。

その後、どこからともなく自由参加の懇親会が提案され、和気あいあいのうちに会が終了しました。次回、4月2日13:30から 発表者: 釘原直樹 (九州工業大学)

テーマ: 1. パニック実験-集合避難行動-

2. 集団全体のパフォーマンスに対するスキナー流の強化スケジュールの違いが集団内の個人のパフォーマンスの時系列的変動と消去抵抗に及ぼす効果について

今年度に行った研究会

第6回 坂田昭裕 (熊本大学大学院)・佐藤静一 (熊本大学)	参加者数
「チームティーチング (TT) の実践と研究」 1月28日	23
第7回 瀧上克義 (鹿児島大学)	
「集団内の派閥の存在が成員の相互作用におよぼす効果」 3月25日	23
第8回 園田直子 (久留米大学)	
「大学生の時間的展望にみられる自己概念」 6月24日	34
第9回 高 禎助 (久留米信愛女学院短大)	
「グループ・ダイナミックスの社会現場への適用-三菱長崎造船所の体験から-」 9月2日	31
第10回 原岡一馬 (久留米大学)	
「心理学研究における実験と調査の基本問題」 12月9日	57

【1995年度広島実験社会心理学研究合評会報告】

広島大学総合科学部 坂田桐子

本年度の広島実験社会心理学研究合評会は、次の通り実施中である。於: 広島大学総合科学部A208室

4月22日 安部麗子・五島昌史 他誌論文

5月27日 神蘭紀幸: 堀毛一也「恋愛関係の発展・崩壊と社会的スキル」実社心研, 34(2)

原田耕太郎 他誌論文

6月17日 矢野里佳・山崎 智 他誌論文

7月15日 田爪宏二・升田裕之 他誌論文

8月 5日 長谷川孝治・五島昌史 他誌論文

9月 9日 三宅史郎: 野波 寛「自己犠牲的行動スタイルをとるマイナリティが個人の順態度的行動に及ぼす効果」実社心研, 33(1)

原 孝成 他誌論文

10月 7日 牧野幸志: 栗林克匡・相川 充「シャイネスが対人認知に及ぼす効果」実社心研, 35(1)

菅沼 崇 他誌論文

11月11日 松田大治: 坂元 章・三浦志野・坂元 桂・森津太子「通俗的心理テストの結果のフィードバックによる自己成就現象-女子大学生に対する実験と調査-」実社心研, 35(1)

升田裕之: 坂元 章「血液型ステレオタイプによる選択的な情報使用-女子大学生に対する2つの実験-」実社心研, 1995, 35(1)

12月 2日 特別企画「カルト・マインド・コントロールについての心理学的考察」

話題提供者 静岡県立大学・西田公昭氏

※広島大学実社心研合評会では、広島に限らず中四国・九州地方からの参加者を歓迎致します。参加希望者には案内状を送付致しますので、下記まで御一報ください。

広島大学総合科学部 黒川正流(0824)24-6579 坂田桐子(0824)24-6577

●水・環境をめぐる国際会議●

International Conference on Water Resources & Environment Researchが、1996年10月29-31日、京都で開催されます (広島大学でのグルダイ学会大会の翌々日からです)。11の発表部門の中には、Human and Social Systems, Risk Analysis and Management, Expert Systems/Decision Support Systems, Compliance to Environmental Regulationsなど、人文・社会科学系の発表部門も含まれています。サーキュラーをご希望の方は、杉万俊夫 (京都大学総合人間学部) までご連絡下さい

(E-mail: sugiman@i.h.kyoto-u.ac.jp; Fax 075-753-6559)。

●韓国心理学会創立50周年記念大会●

創立50周年を迎えた韓国心理学会は、1996年6月27-29日、ソウルのIntercontinental Hotelにて国際会議を開催します。大会テーマは、Mind, Machine, and Environment: Facing the Challenges of the 21st Centuryです。発表申し込み締め切りは3月31日。問い合わせは、Korean Psychological Association, Dep. of Psychology, Chung-Ang University, 221, Hukusuk-dong, Dongjak-ku, Seoul,

156-756, Korea(Tel 822-820-5161; Fax 822-822-0751; E-mail choi@dragonar.nm.cau.ac.kr)まで。

●ヨーロッパ実験社会心理学会第11回大会●

European Association of Experimental Social Psychologyの第11回大会が、1996年7月13-18日、オーストリアの湖畔のリゾートGmundenで開催されます。発表申し込み期限は既に過ぎていますが、参加登録締め切りは、3月31日（安い登録費では1月31日まで）です。問い合わせは、Wolfgang Wagner, Institut f. Psychologie, Universitaet, A-4040 Linz, Austria(Fax +43 732-2468228; Phone +43 732-2468225; E-mail w.wagner@jk.uni-linz.ac.at)まで。

▲日本顔学会第5回公開シンポジウム▲

日時 3月5日（火）10:00-17:00

場所 早稲田大学国際会議場・井深ホール（地下鉄東西線早稲田駅下車徒歩10分）

テーマ：「顔をつくる」

1. いい顔をつくる輪郭形成術（南雲吉則・ナゲモリニック）、2. ネアンデルタール幼児の復元（宮永美知代・東京芸大）、3. 顔名人劇場（三遊亭歌之介）、4. 実演：京劇の顔をつくる（張紹誠・京劇俳優）、5. 対談：顔と造形（三木俊治・東京造形大：聞き手：清水悌）

参加費：3000円（講演予稿集代金）なお、詳細については、日本顔学会事務局（東大工学部電子情報工学科 原島教官室内；電話03-3812-2111(6681)、Fax03-5689-4637）へ

★★ 今年の関連学会大会予定など ★★

3月28-30日 日本発達心理学会大会（埼玉大学、埼玉県民活動総合センター）
5月23, 24日 日本感情心理学会第4回（名古屋大学文学部）
8月31-9月1日 日本顔学会第1回大会（国立科学博物館）
9月 6, 7日 日本応用心理学会第63回大会（中京大学）
9月10-12日 日本心理学会第51回大会（立教大学文学部）
9月28, 29日 日本社会心理学会第37回大会（北海道大学文学部）
10月26, 27日 日本グループ・ダイナミックス学会第44回大会（広島大学総合科学部）

◎◆ お知らせ ◆◎

コンピュータコミュニケーション(CMC)関係の情報を中心としたホームページを開きました。一度お寄りください（横浜市立大学 川浦康至）。
<http://black.yokohama-cu.ac.jp/J/ECIP/HP/YKAWA>

The People Behind Cyberstation
Kawaura, Yasuyuki [Yokohama City University]
ykawa@yokohama-cu.ac.jp / HBG01172@niftyserve.or.jp
<http://black.yokohama-cu.ac.jp/J/ECIP/HP/YKAWA>

○● 記事をお寄せください ●○

各地の研究会、合評会の記録、案内、関連諸学会・研究会の開催情報、紀要、報告書などの情報、自著の紹介および他書の推薦など。逐次掲載していきます。

連絡先はニューズレターの1頁目にあります。（大坊 郁夫）

【編集後記】 * 三隅、末永、廣田、中村諸先生、今後ともご指導をお願いいたします。

* 前号では学会の重要な方針にかかわる記事に印刷ミスがありました。総会時に配布いたしましたもの、改めて同封してあります。お詫びいたします。* 定期試験、採点、入試、会議、そして各種の原稿の締切も重なるこの時期、体調維持に留意しましょう。* 札幌は例年にない大雪。つるつる滑る路面を気にしながら危なっかしう歩くこの頃です。道路の左右は高い城壁のようです。でもスキー、ボードには最適なようです。その様子を眺める温泉もいいですが。（坊）
